

6月です。平穏な日々というものは、どうしても長続きしないのでしょうか。気づけば寒暖差がやたら激しく、半袖でもしんどい暑さになったかと思えば、翌日は上着を着ても肌寒い。体がついていかず、毎朝クローゼットの前で小さな会議が開かれます。だからといって「ずっと高温でいい」と思っているわけでもなく、「少し肌寒いくらいの気候が続けばいいな」なんて都合の良い願望を抱いてしまう。人間とは本当にずるく、自分勝手な生き物です。そんな混乱の中、街角ではアジサイがしれっと咲き始めています。雨に濡れても動じず、淡々と色を変えていくあの落ち着き。色が変わるのは土壌の酸性度のせいなのに、「死体が埋まっているから色が変わる」なんて都市伝説めいた話もどこかで聞いたような気がします。湿気の多い季節は、こういう怪談まがいの話が妙にリアルに感じられるから困ります。アジサイの色変化は本来もっと科学的なのに。そして、季節はまた勝手に次の段階へ進んでいます。5月の爽やかさが恋しいと思った瞬間にはもう遅く、湿度だけが先に梅雨入りしているような日もあります。日本の季節は本当にマイペースで、こちらの都合など一切考慮してくれませんか。そして6月といえば、なんといっても祝日がひとつもありません。カレンダーをめくると、そこだけぽっかり空白。あの無味乾燥とした灰色の並び。季節は勝手に進むのに、休みだけは増えないという理不尽さ。アジサイは色を変えてくれるのに、カレンダーは一向に色づかない。どうぞ、寒暖差と湿気と祝日ゼロの三重苦の中でも、なんとか軽やかに6月をお過ごしください。

▼ I N D E X ▼

- 【技術関連情報】 ・量子ドットレーザー
- 【関連製品紹介】 ・近紫外高出力ファイバーレーザー光源
- 【お知らせ】 ・ダイナビーム

■技術関連情報■

量子ドットレーザー

1982年に東京大学の荒川教授によって提唱された量子ドットは従来の量子井戸によって電子を2次元方向に閉じ込めるのではなく3次元的に閉じ込めることができます。これにより電子が効率よくレーザー発振を行えるので、低しきい値、高効率のレーザーを作ることができます。また閉じ込めがきついで従来のレーザーと比較して温度安定性が良く、20°Cの高温でも動作することができます。さらに光学システムで問題になる戻り光の影響も少なくなるのでシステムの簡略化にも寄与できそうです。以前メルマガでも紹介したCPOは高温のチップの上でレーザーを動作させなくては行けないため新しいレーザーが必要で、現在では光コネクタ1ポート当たり1.6Tbpsも実現しているようです。量子ドットレーザーやPCSELなど日本の発想と技術で新しいデバイスが誕生しています。当社もその応用で社会実装に協力したいと思っております。

QDレーザー 量子ドットレーザーとは
<https://www.qdlaser.com/technology.html#modal2>

<https://www.innolume.com/quantum-dot-technology/>

日経クロステック 光電融合に量子ドットレーザー、造れるのは日独2社
<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/03462/012800009/>

(藤田)

■関連製品情報■

近紫外高出力ファイバーレーザー光源

本文でも紹介の様に近紫外高出力ファイバーレーザー光源は色々な分野で使用されています。

こんなことがレーザーでできないか、これをレーザーで測れないかなどございましたらお問い合わせください。

近紫外高出力ファイバーレーザー光源

<https://www.alt.co.jp/laser-light-source#ttl-navi11>

■お知らせ■

ダイナビーム

当社ではブルーの中出力（1～100W）レーザーシステムを”ダイナビーム”と呼んで開発しています。

2軸ガルバノスキャナーやポリゴンスキャナーなどの光学スキャナーと組合わせて供給させていただいております。

お問い合わせください。
